

杉本悠一さんのプロフィール

(豊屋辰蔵杉本豊店代表 四代目辰蔵)

京都府の北部、あの天橋立で有名な宮津市で、とっても爽やかな方とお会いしました。地元で生まれ育った彼は、90年を超える家業の豊屋を継ぐべく、20代で家に戻る（四代目を継いだのは昨年）や否や、仕入れ、商品のラインナップ、作り方まで、お客様目線に立った「改革」を次々と断行。これまで培われてきた豊屋辰蔵の伝統の上にさらなる進化を心がけているとのこと。その頃に、戦国もののゲーム「信長の野望」にハマリ、高校時代苦手だった日本史に興味を持ち出したという。家業の仕入れ先がある、熊本や大分・国東半島が、ご当地大名・細川忠興公ととても深い関わりがあることを知ると同時に、文武に秀でた数寄人(すきびと)忠興をまちの歴史的財産として活かさきれていないことに歯がゆく思い、宮津のブランディングは「オレがやらねば、誰がやる！」と覚悟を決めると、地元の才能ある若者や行政とのネットワークづくりに邁進。(地域の様々な取り組みに参加する内に自然とネットワークができ、また趣味である音楽活動をする内に地域の素晴らしい才能に出会った、と謙遜。) 地元の子どもたちに地元のヒーローのことを知ってもらいたいと、そのネットワークを駆使して、平成26年に『戦国またのぞき～丹後偉人ブック vol.1』(写真添付)を発刊。御多分に洩れず、宮津市も年々人口が減り、ピーク時の36000人から今では半分に。一刻も早く「オンリーワン」のまちづくりをしないと、このまちは無くなると危機感を持ち、天橋立をもっと活かすためにも、このまちの良さをわかりやすく、世界中の人に発信したいという。もう一つ、細川忠興公が、戦国時代が終わると見るや、いち早く鉄砲鍛冶の技術を装飾用の刀の鏝(つば)を生産する体制に切り替え、新たな産業を興したように、地元の商売も地域内の消費でとどまるのではなく外貨を稼げる創意工夫を自分たちのような若い事業者がどんどん行なっていかなばと、熱く語っていたことが印象的でした。また、「ブラタモリ」よろしく、まち歩きを企画することも多いのだとか。是非とも、忠興公ゆかりの「ブラミヤツ」を期待したいものです！

*「まちの人間国宝さん」認定No.3 若林正博さんからの推薦を受けて取材させていただきました。



2018. 1. 29 松尾 清嗣